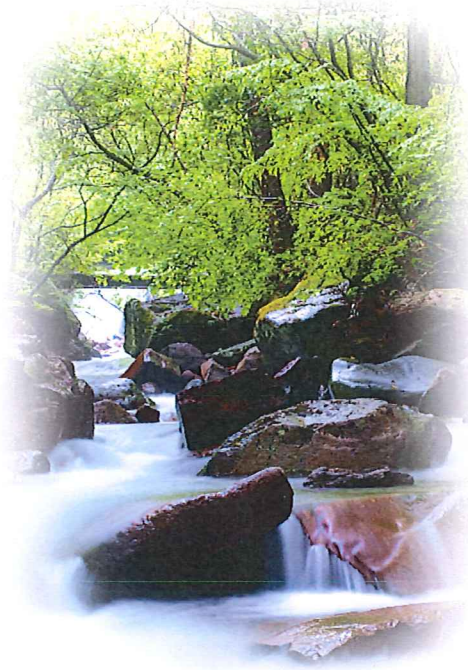


エコアクション21

環境活動レポート

2018. 6. 1~2019. 5. 31



2019年6月20日作成

株式会社 鹿 熊 組



目 次

1. 環境方針
2. 事業内容
 - 1) 事業所名及び代表者名
 - 2) 所在地
 - 3) 環境管理責任者及び担当者
 - 4) 事業内容
 - 5) 事業規模
3. 活動組織
4. 環境目標
5. 環境活動の取組結果と評価
 - 1) 環境活動の取組結果
 - 2) 環境活動の取組結果の評価
6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無
7. 代表者の評価と見直し

1. 環境方針

【環境に対する基本理念】

当社の経営姿勢は常に堅実性に重点をおき、誠実・情熱・技術の三本の柱で様々なお客様のご要望にお応えすることをめざしてまいりました。

当社が長年にわたり蓄積してきた技術力を活かし、三本の柱の元で、環境負荷の発生を可能な限り軽減して、自然環境の維持・改善・向上・保護を目的とした持続的活動を行うことにより人類共通の課題である環境問題に取り組んでまいります。

【環境方針】

- ① 省エネルギーに努めて、温室効果ガスの発生を可能な限り抑制いたします。
- ② 当社の事業活動に伴い発生する産業廃棄物及び建設副産物の発生抑制・削減・リサイクルに取り組めます。
- ③ 環境に配慮した製品・サービスの提供に努めます。
- ④ 事務用品のグリーン購入への取り組みを行います。
- ⑤ 節水に心がけ水資源の有効活用を行います。
- ⑥ 環境関係法規制を遵守します。

これらについて環境目標・活動計画を定め、全従業員に周知し実行します。定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めてまいります。

2011年4月20日

長野県長野市大字鶴賀緑町
1631番地3号

株式会社 鹿熊組

代表取締役社長 鹿熊 厚

2. 事業内容

1) 事業所名及び代表者名

株式会社 鹿熊組
代表取締役社長 鹿熊 厚

2) 所在地

本 社 長野県長野市大字鶴賀緑町1631番地3号
機材センター 長野県長野市真島町川合北宮島2036番地

3) 環境管理責任者及び担当者

環境管理責任者	専務	鹿熊 聡
環境管理担当者	管理部	鹿熊 聡
	土木部	大谷章彦
	建築部	神田知徳
環境管理事務局		新井重隆
連絡先	TEL	026-235-3311
	FAX	026-235-3315
	HP	http://www.kakumagumi.com
	E-mail	info@kakumagumi.com

4) 事業内容

総合建設業 許可番号 長野県知事 許可(特-26)第22710号

建設業の種類

土木、大工、石、管、鋼構造物、しゅんせつ、
防水、造園、建築、とび・土工、屋根、
タイル・れんが・ブロック、舗装、塗装、
内装仕上、水道施設工事業

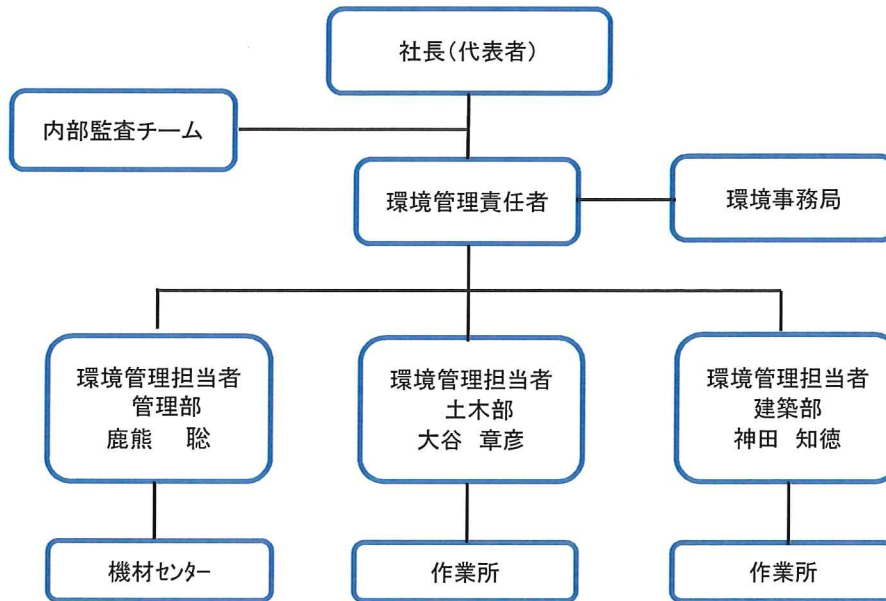
5) 事業規模

完成工事高

55期	3,683百万円	(2013年6月1日~2014年5月31日)
56期	3,599百万円	(2014年6月1日~2015年5月31日)
57期	3,709百万円	(2015年6月1日~2016年5月31日)
58期	3,494百万円	(2016年6月1日~2017年5月31日)
59期	5,220百万円	(2017年6月1日~2018年5月31日)
60期	2,482百万円	(2018年6月1日~2019年5月31日)

従業員数	83人
本社床面積	1132.1m ²
機材以外床面積	5963.6m ²

3. 活動組織



責任者	役割・責任・権限
社長（代表者）	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 環境管理責任者・部門担当者を任命 環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 環境目標・環境活動計画書を承認 代表者による全体の評価と見直しを実施 環境活動レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理、 環境関連法規等の取りまとめ票を承認 環境目標・環境活動計画書を確認 環境活動の取組結果を代表者へ報告・ 環境活動レポートの確認 環境事務局の設立、担当者の任命
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 環境目標、環境活動計画書原案の作成 環境活動の実績集計 環境関連法規等取りまとめ表の作成 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 環境活動レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
環境管理担当者 (部門長)	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境経営システムの計画・実施 自部門における環境方針の周知 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 特定された項目の手順書作成及び運用管理 自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成 教育、訓練を実施、記録の作成 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施 環境活動の内部コミュニケーションの実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 環境活動の具体策の提案、活動状況の定期報告 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

4. 環境目標

2017年(59期)の実績値を基準値とし、2018年の1年間の目標値、環境活動計画及び具体的施策を下表の通り策定した。

	目標値	活動計画・施策
省エネルギー化	電力の削減 基準年度実績 2017 210,892 kWh 111,289 kg-CO2 使用する二酸化炭素排出係数： 0.518 2018 年度目標 基準年度比 99.5% 削減率 -0.5% 目標値 110,733 kg-CO2 ※設定目標値については年度ごとの売上高比により変動有 2019 年度目標 前年比-0.5% 99.0% 2020 年度目標 前年比-0.5% 98.5%	1. 空調温度の適正化・熱の出入りの調整 2. 時間帯消灯・機器電源OFF(昼休憩・外出時等) 3. 時間帯消灯・機器電源OFF(休日・夜間) 4. 効率化による残業・休日出勤削減 5. 空間利用(在室人員のまとまり)の工夫 6. 省電設定、省電機器の導入の追加検討 7. 社内ルールの遵守(制限・約束) 中期計画 1. 前年手段の継続・改善 2. 前年検討事項の実施への取組 3. 社員行動の不良部の改善 4. 残業・休日出勤の削減 5. 更なる向上のための手順改善 6. 社内ルールの遵守 7. 新規改善策の検討
	燃料の削減 基準年度実績 2017 ガソリン 89,522 ℓ 軽油 154,062 ℓ 灯油 20,649 ℓ 年 601,020 Kg-CO2 2018 年度目標 基準年度比 99.5% 削減率 -0.5% 目標値 598,015 Kg-CO2 ※設定目標値については年度ごとの売上高比により変動有 2019 年度目標 前年比-0.5% 99.0% 2020 年度目標 前年比-0.5% 98.5%	(通勤・移動車両) 1. エコドライブの導入 2. 日常点検の励行 3. 相乗りの推進 4. 運行経路の適正化 5. 省エネ車両への交換 (重機械) 1. アイドリング時間の短縮 2. 休憩時間のエンジンストップ 3. 過剰負荷の軽減(輸送) 1. 共積みの励行 2. 配送経路の適正化・集約化(設備) 1. 定期点検の励行 中期計画 1. 前年手段の継続・改善 2. 重点事項の推進(重点事項) ・エコドライブの励行 ・省エネ車両への交換の推進 ・関係会社の協力による適正機械の使用促進 ・作業手順の適正化による過剰負荷の軽減 ・作業所間調整による運行経路の適正化による走行距離の短縮 ・省エネルギー型機器の導入の可能性の検討 ・新規改善策の検討
廃棄物排出量削減	一般廃棄物の削減 基準年度実績 2017 5,632 kg 2018 年度目標 基準年度比 99.5% 削減率 -0.5% 目標値 5,604 kg ※設定目標値については年度ごとの売上高比により変動有 2019 年度目標 前年比-0.5% 99.0% 2020 年度目標 前年比-0.5% 98.5%	(全般) 1. 分別の徹底・混合廃棄物の削減 2. 分別ボックス・スペースの確保 3. 周知・徹底 (減量) 1. ペーパーレス化の促進 2. 書類の簡素化の推進 3. 両面コピーの促進 4. ミスコピー・ミス印刷の減量 中期計画 1. 前年手段の継続 2. 重点事項の推進(重点) ・不良者の発見と指導 ・周知・徹底 ・整理整頓 ・工夫及び意識改革 ・手順の改善(社内資料) ・保管書類の削減(保管基準、保管方法)
	産業廃棄物の削減・リサイクル化 基準年度実績 2017 4,120.46 t 0.33% 2018 年度目標 基準年度比 99.5% 削減率 -0.5% 目標値 4,099.86 t ※設定目標値については年度ごとの売上高比により変動有 2019 年度目標 前年比-0.5% 99.0% 2020 年度目標 前年比-0.5% 98.5%	(全般) 1. 分別の徹底・混合廃棄物の削減 2. 分別ボックス・スペースの確保 3. 周知・徹底 (リサイクル促進) 1. 意識の高揚 2. 廃棄物に関する知識の向上 3. 本社廃棄物の重量測定～社内への通知・減量促進 中期計画 1. 前年手段の継続 (全般) 2. 分別ボックス・スペースの必要な改善 3. 周知・徹底のための再教育 (リサイクル促進) 1. 意識の高揚のための再教育
水資源使用量削減	水道水の削減 基準年度実績 2017 1,306.0 m ³ 2018 年度目標 基準年度比 98% 削減率 -2% 目標値 1,279.88 m ³ ※設定目標値については年度ごとの売上高比により変動有 2019 年度目標 前年比-2.0% 96% 2020 年度目標 前年比-2.0% 94%	(本社) 1. 自動給水装置の水量調整 2. 節水の励行の周知・徹底のための社員教育(作業所・機材) 1. 用水利用の促進 2. 雨水利用の促進 中期計画 1. 前年度の継続(作業所) 1. 洗車回数の制限 2. 循環型の導入等による再利用の促進

	目標値	活動計画・施策
環境配慮資材購入	事務用品のグリーン購入 2017 年度目標 購入品設定品目の維持 2018 年度目標 今年度実績により 2019 年度目標 設定変更	1. 優先購入決定品の維持 2. 白色を落とした紙類の購入→減量へ移行 3. 優先購入対象品目の増加 中期計画 1. 前年手段の継続・改善
	環境配慮型建設材料、工法の提案・実施 基準年度実績 提案率 2017 実績調査不能 2018 年度目標 官庁・民間工事創意工夫 = 施工・材料提案 実施50% ※設定目標値については年度ごとの受注高により変動有 2019 年度目標 年度ごとの実績により 2020 年度目標 設定変更します	1. 設計、見積案件においての、環境配慮型材料・工法・設備の提案のための基準作成 2. 上記について提案の実施 3. 熱意を持った働きかけ 4. 官庁・民間工事(環境配慮)創意工夫・ボランティア活動等の実施 中期計画 前年手段の継続・改善
製品への環境配慮		

5. 環境活動の取組結果と評価

1) 環境活動の取組結果

(注意：60期目標及び実績は12ヶ月経過の2019年5月末日現在値)

項目	区分	管理種別	単位	59期実績	60期目標	60期実績	対目標比率	評価
電力の削減	本社・機材	使用量	kwh	84,302	83,880	64,760	77.2%	◎
		CO2換算値	kg-CO2	43,668	43,450	33,545		
	作業所	使用量	kwh	130,542	129,889	210,346	161.9%	×
		CO2換算値	kg-CO2	67,621	67,283	108,959		
	合計	CO2換算値	kg-CO2	111,289	110,733	142,504	128.7%	×

(評価 ◎：大きく達成 ○：-2%以内 △：+2%以内 ×：未達成)

(注意：60期目標及び実績は12ヶ月経過の2019年5月末日現在値)

項目	区分	管理種別	単位	58期実績	60期目標	60期実績	対目標比率	評価	
燃料の削減(1)	ガソリン	本社・機材	使用量	リットル	78,573	78,181	62,328	79.7%	◎
			CO2換算値	kg-CO2	182,421	181,509	144,704		
		作業所	使用量	リットル	10,949	10,894	8,984	82.5%	◎
			CO2換算値	kg-CO2	25,420	25,292	20,857		
	合計	CO2換算値	kg-CO2	207,840	206,801	165,561	80.1%	◎	
	軽油	本社・機材	使用量	リットル	20,565	20,462	9,116	44.6%	◎
			CO2換算値	kg-CO2	53,969	53,699	23,923		
		作業所	使用量	リットル	133,497	132,829	38,909	29.3%	◎
			CO2換算値	kg-CO2	350,341	348,590	102,110		
	合計	CO2換算値	kg-CO2	404,310	402,289	126,033	31.3%	◎	
	灯油	本社・機材	使用量	リットル	1,852	1,843	1,809	98.2%	◎
			CO2換算値	kg-CO2	4,615	4,592	4,507		
作業所		使用量	リットル	18,797	18,703	32,659	174.6%	×	
		CO2換算値	kg-CO2	46,840	46,606	81,383			
合計	CO2換算値	kg-CO2	51,455	51,198	85,890	167.8%	×		
燃料の削減(2)	都市ガス	使用量	m3	13,618	13,550	14,707	108.5%	×	
		CO2換算値	kg-CO2	28,713	28,569	31,008			

(評価 ◎：大きく達成 ○：-2%以内 △：+2%以内 ×：未達成)

(注意：60期目標及び実績は12ヶ月経過の2019年5月末日現在値)

項目	区分	管理種別	単位	59期実績	60期目標	60期実績	対目標比率	評価	
CO2排出量の削減		本社・機材	CO2換算値	kg-CO2	313,386	311,819	237,687	76.2%	◎
		作業所	CO2換算値	kg-CO2	490,222	487,771	313,309	64.2%	◎
		合計	CO2換算値	kg-CO2	803,608	799,590	550,996	68.9%	◎

(評価 ◎：大きく達成 ○：-2%以内 △：+2%以内 ×：未達成)

(注意：60期目標及び実績は12ヶ月経過の2019年5月末日現在値)

項目	区分	管理種別	単位	59期実績	60期目標	60期実績	対目標比率	評価	
水使用量の削減	水道・下水	本社・機材	使用量	m3	665	652	749	114.9%	×
		作業所	使用量	m3	641	628	171	27.2%	◎
	合計	使用量	m3	1,306	1,280	920	71.9%	◎	

(評価 ◎：大きく達成 ○：-2%以内 △：+2%以内 ×：未達成)

(注意：60期目標及び実績は12ヶ月経過の2019年5月末日現在値)

項目	区分	管理種別	単位	59期実績	60期目標	60期実績	対目標比率	評価	
廃棄物排出量の削減	一般廃棄物	北用紙	使用量	kg	5,632	5,604	5,236	93.4%	◎
		産業廃棄物	全体量	t	4,120	4,099	3,393	82.8%	◎
		再生不可率	%	0.96%	0.33%	0.72%	218.2%	×	

(評価 ◎：大きく達成 ○：-2%以内 △：+2%以内 ×：未達成)

CO2排出量の推移

年度	2015	2016	2017	2018	単位
排出量	736,346	755,398	803,608	550,996	kg-CO2
目標値	720,480	732,664	729,000	799,590	kg-CO2
完工高	3,709	3,494	5,220	2,482	百万円

二酸化炭素排出量



2) 環境活動の取組結果の評価

1. 省エネルギー化 (CO₂排出量の削減)

項目	区分	数値評価	活動評価
電力	本社・機材	目標値-22.8%＝◎	本社設備については昨年からの変化はない為、各部署単位の業務の効率化、時短に努めたことによることが、減量となった要因と捉えることが出来る。
	作業所	目標値+61.9%＝×	今期は24時間稼働の災害復旧現場があり、現場での仮設電力の引込み等も、通常期よりも増となった為大幅な目標増となった。 受注の要件、現場の状況等により大幅に変化しやすいお項目の一つと考えている。 現場配置職員による節電努力はされている。防犯灯にソーラー簡易照明等の使用、警備システムの利用による夜間の電力使用量の削減など努力が見られる。
ガソリン	本社・機材	目標値-20.3%＝◎	当社の車両保有台数は例年より増の傾向であり、その内容については、若干HV車の導入が進みつつある状況ではあるが、さほど大きな変化は見られていない。 最大の要因は長距離通勤の現場数の減によるものと考えられ、今後の指標となるよい結果となった。 エコドライブ、燃料効率の良い車両の導入、相乗りの推奨等による減量に努めることは今後も必要であると共に、顧客要望に対応しながら、施工高の平準化を引き続き目指すこと、集中を回避する段取りを心がけること、十分な工期を確保すること等が、間接的ではあるが総走行距離の削減にもつながり、大きな影響を与えると考えている。
	作業所	目標値-17.5%＝◎	作業所専用車両が減ったことが要因と思われる。 車両についてはエコドライブに加え、HV車、軽車両等燃費率のよい車種の採用、作業所機器等については、エコ仕様機の使用等による削減努力を継続していきたい。
軽油	本社・機材	目標値-55.4%＝◎	輸送作業が主な使用目的である。車両は変更していない。 遠隔地作業所への長距離運搬移動が減ったことによる減量が最大の要因と考えられる。
	作業所	目標値-70.7%＝◎	受注高が前期と比較して大幅に減となりその影響を考えると、更なる削減となっている。 機械の省エネ化については、当社及び下請け業者を含め、省エネ型の機械導入に努めている。その影響が大きく出ているものと推測できる。 暖気運転の時間短縮及びこまめなエンジンカット、使用者への教育等により削減努力、省エネ機器の導入・利用については協力を通じ、引き続きお願いしていく予定である。
灯油	本社・機材	目標値-1.8%＝◎	ほぼ一定の使用量が例年続いている。小まめな暖房機器の調節を実施した結果減量となった。また、各部門職員の勤務時間の超過労働短縮を目指すことにより、削減量の改善に向かっている。
	作業所	目標値+74.6%＝×	冬期の24時間稼働現場、コンクリート構造物築造現場等での使用量増が要因となった。 受注要件・状況・天候等により大きく左右される部分と認識している。 現場職員による、削減への努力を今後も期待したい。
都市ガス	本社・機材	目標値+8.5%＝×	冷暖房に使用している。未使用空間での冷暖房運転の削減等による改善を進めている。 今期は増となってしまったが、機器の故障等による影響も考えられる。 気候に左右された点が多いとは思われるが、省エネ機器の導入・既存機器の整備点検についても検討を進めている。
<p>まとめ</p> <p>省エネルギー化については、本年度は本社関連については良い結果となった。今後の指標と捉えてもよいのではないかとと思う。また、機器・配管の老朽化による破損箇所等の早期発見にもつながり非常に有益・優秀な結果が得られたと感じている。 燃料関連は長距離通勤・輸送が減少したこと、車両の更新によるものが要因である。電力等については、働き方改革による時間の効率的利用、個々の節減意識の高まりも、この結果の要因であろうと考える。 現場については、受注の内容、現場の状況、天候等に各要素が大きく左右される事であり、その数値については是非の判断は難しいが、職員一人一人の、環境配慮への意識については、年々向上が見られている。結果に繋がる行動を今後も期待している。</p>			

2. 廃棄物排出量の削減

項目	区分	数値評価	活動評価
廃棄物	一般廃棄物	(コピー用紙購入量) 目標値-36.6%＝◎	非常に良い結果が得られた。本社での一括購入をしている為、現場より購入依頼がある場合にも、多めの発注ではなく、少量での発注が多くなった。 社内通信でごみの減量・使用量の削減を昨年より行っており、徐々にその効果が見られているのではないかと考える。
	産業廃棄物	(産業廃棄物総量) 目標値-49.3%＝◎	結果は良好であった。当社の受注内容により、大きく変化するところであり、今期の結果が今後の基準となりえるかは疑問が残る処である。
		(全産業廃棄物中の混合廃棄物の割合) 目標値0.33%→結果0.72%＝×	廃棄物の総量は減少しているが、混合廃棄物については目標を大きく超過してしまった。昨年度の0.96%に比較すれば今期は-0.24%向上した。 受注工事の完了時に排出される雑品の分別がしきれずに混合廃棄物として排出されたことが、要因と考える。事務所等の撤収時の慌ただしさの中でも確実に分別を行うことが必要であり、社内の教育・訓練方法等の見直しが必要と考える。
<p>まとめ</p> <p>産業廃棄物の総量については、今後とも受注状況により変化するという現実があり、その点については変化は今後も想定が難しい処である。しかしながら、混合廃棄物については、努力と根気による処が大きく左右する処であり、今年度は若干ではあるが昨年実績より向上がみられた。今後も可能な限りの3R活動の推進を図り、確実な分別による混合型の廃棄物の削減についてもその努力を継続する予定です。</p>			

3. 水資源使用料の削減

項目	区分	数値評価	活動評価
水資源	本社・機材	目標値+14.9%=×	ほぼ固定化している施設で大きな増となった。各所の点検の結果、本社老朽配管からの漏水箇所の発見に繋がった。数値の急激な増減に対し速やかに対応できたことは大きいと考えている。
	作業所	目標値-72.8%=◎	年度内受注工事の内、多量に水道水を使用する工事が少なかったことが、目標に対し大きな削減につながっている。 また、現場での地下水、用水の活用もみられた。
<p>まとめ 現場での使用水量については、受注要件により大きく左右されるが、用水等を養生散水として使用する事、排水時には適切な処理の実施による、自然循環を心がけ水道水の使用量を減量できるよう努力を期待している。</p>			

4. グリーン購入

<p>コピー用紙のグリーン購入化については、例年取組を予定しつつも、経費の面でなかなか取組みができない状態である。メール等への資料添付による、ペーパーレス化をさらに進め、使用量の削減についての努力は今後も継続していきたい。</p> <p>使用量の多い紙類と共に、日頃から購入頻度の高い物品に関して、社内グリーン購入推奨品目と位置づけ、その物品以外のものについても、購入時には積極的に選択するよう指導している。</p> <p>また、現場購入品についてもグリーン購入品目を優先できるものについては、積極的に選択して購入していくよう指導している。経費について通常商品を購入するよりも、割高となる実態は変わっていない為、当社としては全量をグリーン購入に頼る事は、経営的には不適と判断している。</p> <p>今後も新たな商品が開発され続けていくことから、当社としても可能な限りの導入検討を進めて行く。</p>
--

5. 製品への環境配慮

<p>公共工事においては、受注物件を精査し、100%ではないが半数以上の現場において、工法・機械・材料・安全管理等の環境配慮提案がなされている。民間受注工事についても、使用する材料、工法等についての環境配慮提案を行い施主様のご理解を得られるようになってきている。</p> <p>配置された職員一人一人の意識の高さ・近年の環境変化が、顧客のご理解を得られている要因であろうと考える。</p>
--

6. 環境活動

<p>本社外周、機材センター外周、各施工現場において、周辺環境の美化活動を実施してきた。今後も都度継続していきます。</p> <p>活動内容について、組織的な環境活動は、毎週の本社及び機材センター周辺の清掃を実施、植栽植え替え等しているが、現場単位での活動では、現場及び事務所周辺の側溝清掃、草刈り、緑化、用水路清掃・景観活動、除雪等の支援活動等多岐に渡る活動を実施しており、地域住民の方・工事発注者の方より高く評価いただいています。</p> <p>また、工事現場のイメージアップにもつながっており、今後も地域に根差した積極的な活動を実施していきます。</p>
--

6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

1. 環境関連法規の遵守状況

法規制等の名称	該当事項	要求事項	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	一般廃棄物及び産業廃棄物の管理、排出	<ul style="list-style-type: none"> ・保管場所の基準の遵守、保守（保管施設、囲い、掲示板等） ・収集運搬許可の確認 ・収集運搬者、処理業者との契約締結 ・マニフェスト発行、管理 ・マニフェスト保管（5年間） ・産廃管理計画書・報告書の提出(毎年6月) 	遵守 違反なし
資源の有効な利用の促進に関する法律	建設工事における再生資源の利用促進	<ul style="list-style-type: none"> ・再生資源利用計画書・実施書の提出 	遵守 違反なし
建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律	建設特定資材廃棄物の再資源化	<ul style="list-style-type: none"> ・再生資源利用計画書・実施書の提出 	遵守 違反なし
騒音規制法	指定地域内の特定建設作業に伴う騒音	<ul style="list-style-type: none"> ・特定建設作業は届出 	遵守 違反なし
振動規制法	指定地域内の特定建設作業に伴う振動	<ul style="list-style-type: none"> ・特定建設作業は届出 	遵守 違反なし
水質汚濁防止法	油脂を含んだ水の排出	<ul style="list-style-type: none"> ・事故により油を含んだ水が公共用水域に排出された場合は応急処置を施すと共に県知事へ届出 	遵守 違反なし
大気汚染防止法	建設機械に関する指針	建設帰化に関する技術指針に則り、排出ガス基準を遵守	遵守 違反なし
労働安全衛生法	石綿障害予防規則	石綿飛散防止対策マニュアルに則り、石渡ばく露防止の徹底	遵守 違反なし
じん肺法	粉塵障害予防規則	工事により発生する粉塵の抑制・拡散防止・保護具着	遵守 違反なし
グリーン購入法	事務用品の購入	環境物品の調査、購入品目設定・調達	品目調査・設定・調達適切に実施
特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律及び政省令	特定自動車の使用制限規制	<ul style="list-style-type: none"> ・規制適合車の使用 	遵守 違反なし
消防法 消防法施行令 消防法施工規則	油類の流出防止	<ul style="list-style-type: none"> ・保管場所の基準の遵守、保守（保管施設、囲い、掲示板等） 	遵守 違反なし

2. 環境関連訴訟等の有無

環境関連訴訟・環境関連苦情等について、この6年発生しておりません。

7. 代表者の評価と見直し

当社がエコアクション21の環境活動への取組宣言を開始して8年が経過しました。同認証を取得して5年が経過し、来年令和2年の2月には、ガイドラインの2017年版への移行を視野に入れた内容での再認証登録をします。

年号が平成から令和に変わりましたが、環境問題については、更に厳しい状況が続いています。地球の温暖化の影響による暖冬や、ゲリラ雷雨等の急激な天候変化がここ数年増しており、長野市内では幸いなことに、大きな災害にはつながっておりませんが、いつ何時異常気象による天災に見舞われてもおかしくない時代です。

また、先日行われたG20閣僚会議in軽井沢の開催前に、原田環境相が長野県と国際組織イクレイ日本が5月末に発表した「長野宣言」に触れ、プラスチックごみを含めた世界的環境課題に、再生エネルギー100%地域を目指す取り組みを国としての政策ではなく、地域から発せられる取組という事に、世界に強い刺激を与えられるのではと言及しています。

当社としても環境配慮・持続可能社会の実現の為更なる努力を全社一丸となって、今後とも続けていきます。

総評としては、昨年の評価と見直しの中で、今後の指標となる結果が得られるのではないかと考えを述べましたが、想定通り総使用量が前年度数値に比べて、大きく削減されています。

工事の受注量、受注内容、通勤距離等の問題により大きく数値が左右される事であり、一概に削減できたとして喜ぶべきことではありません。今後の状況観察を怠らず、改善の必要な事には前向きに取り組むことにより更なる効果を見込みたいところです。

廃棄物の分別（混合廃棄物の減量）については、社員一人一人の努力にもかかわらず、なかなか良好な結果が得られていません。この事実を踏まえ今後の取組を見直し、社員・関係各社への周知等の改善に努めてまいりたいと思うところです。

新たな施策についてはなかなか出てまいりませんが、環境配慮製品の顧客への提案については、例年以上に実施されている処です。当社社員の提案に対し、顧客の皆様からの御理解を得られ、実現している事も徐々にではありますが増えてきています。一括りに環境問題といってもなかなか他人事のように感じて、コストのみを追ってしまいがちなところを、御理解いただけ提案が採用された事が、大きくご協力いただいた皆様には感謝に堪えません。環境配慮製品・環境に配慮した工法の提案を当社施工部門を中心に、今後もさせていただきます。

活動の範囲についても、当社内部だけでは限定された範囲でしかありませんが、当社の協力業者の方々とも、各取組について連携して行く事により、更に広い範囲に環境への取組としての活動を広げていく事も、積極的な取組の一環として期待している処です。

最後にエコアクション21認証は環境活動として、国際的な環境問題にも関わる重要な国の施策であり、未来に繋がる重要な一歩であることを認識しつつ、向上心・探究心を持って今後も活動していきます。

令和1年6月20日

株式会社 鹿熊組

代表取締役社長 鹿熊 厚

